

安全・安心 infomation

～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

- 1) 迷惑撮影の実態と対策
- 2) リレー／駅伝のユニフォームのルール（選択制ユニフォーム）
- 3) ロードレースにおける助力の認識
- 4) 運営車両の安全安心



1. 迷惑撮影の実態と対策

加盟団体・協力団体へ3年ぶりに迷惑撮影に関するアンケートを実施（42団体回答 1/30時点）

迷惑撮影対策実施率
100%



- 一方で、**約70%** が迷惑撮影に関する不審者の対応を経験。（直近2年）
- 警察案件に発展したことがあると回答した団体は、**約40%** に上る。（直近2年）
- コロナ禍前後での不審者（迷惑撮影）の **増減ナシ**。

実施している対策

- アナウンスによる注意喚起 (39)
- 競技役員・スタッフによる巡回 (38)
- 場内への啓発サイン・看板設置 (34)
- 大型映像での注意喚起 (31)
- プログラム広告 (29)
- カメラ持ち込み申請 (19)

その他

- ・入場者の制限
- ・警察・犯罪専門スタッフによる巡回
- ・カメラ撮影エリアの設定
- ・QRコードによる通報フォーム設置
- ・大型バナーの設置

大会規模や開催地の状況などにより、工夫をして対策を実施。コロナ前と比較し、警察や専門家との連携した活動も増えていました。

不審者が多い世代（対象）

- 高校生 (22)
- 一般 (11)
- 大学生 (3)
- 小学生 (1)

不審者が多い種目（対象）

- トラック種目 スタート地点 (19)
- 走幅跳・三段跳 (10)
- 走高跳 (7)

その他

- ・女子セパレート着用種目
- ・フィニッシュ地点

特に女子高校生のトラック種目や跳躍種目は注意が必要

不審者が多い競技以外の場所

- 表彰式 (5)
- フィニッシュ後 (4)
- トイレ (3)

その他

- ・競技前の着脱時
- ・選手紹介のタイミング
- ・競技中いつでも
- ・スタンド
- ・補助競技場・サブトラ
- ・選手陣地（テント）

競技以外で事例の多い3項目については、対策が必要（次頁）



1. 迷惑撮影の実態と対策

加盟団体・協力団体へ3年ぶりに迷惑撮影に関するアンケートを実施（42団体回答 1/30時点）

引き続きのお願い事項

会場整備・啓発活動の徹底

- ・会場内への注意喚起ポスターの掲示
- ・大型ビジョンおよび会場アナウンスでの呼びかけ
- ・大会プログラムへの注意喚起広告の掲載
- ・スタッフ／審判による会場巡回（特に、女子短距離種目、跳躍種目）
- ・トイレへの啓発ポスター・チラシ掲示



競技運営面の工夫

- ・表彰式での所属ウェアやTシャツ着用の推進
- ・レース後の速やかな誘導と、安全な導線の確保（荷物運搬が無い場合、レース後にユニフォーム姿のまま歩いて安全な導線の確保）



地域管轄警察署との連携

- ・開催期間中の定期的な会場巡回
- ・警察署名の入った盗撮禁止看板の制作

陸連主催大会での取り組み例

- ▶1階層通路下での撮影禁止（スマホ・タブレットのみ可）
 - ・GGP/日本選手権での取り組み例
 - ・完全撮影NGとしないことでファンと共存する形をとっている
 - ・選手至近距離での撮影をなくすことで、心理的負担を軽減

- ▶100mスタート後方の撮影禁止エリア設定
- ▶通報フォーム（QRコード）設置
- ▶アスリート委員会との取り組み（リボン活動）



- ▶主催者/指導者へのアンケート実施とフィードバックによる対策の周知・強化
- ▶安全安心に関する特設サイトの公開（2024年春OPEN予定）

アンケートにご協力いただきました団体の皆さま、ありがとうございました。アンケート結果は3月下旬を目途に各団体の皆さまへお戻しさせていただきます。

2. リレー/駅伝のユニフォームのルール (選択制ユニフォーム)

【背景】

- 近年、迷惑撮影（盗撮）の問題が拡大しており、選手自身が自らの身を守る意識を持っている。
- 自身の身を守る観点から、「ユニフォームの形式（セパレート・ブルマ・スパッツなど）を選択したい」と考えている選手が一定数いることが、アンケート回答等から判明した。
→「リレー種目に出場の際には、学校・チーム単位で形式を揃える必要がある」と思い、仕方なく望んでいないユニフォームを着用しているケースがあった。

国体 女子リレー種目における ユニフォーム着用割合の変化（2019年→2022年）

○4選手ともブルマタイプ	94%	→	64%
○4選手ともスパッツタイプ	6%	→	18% UP!
○選手により選択	0%	→	18% UP!

※陸連調査のため誤差あり



△選手により、異なるタイプのユニフォームを選択している例

【競技規則】

- ◆ルールブック - TR.5 服装、競技用靴、アスリートビブス
5.1 全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する
- ◆ハンドブック - 競技者係 実施要領 ③留意点 (5) 服装
全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者はランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する。（短パン・スパッツの違い等は許容範囲）

▶ 同じチームであることが分れば、**ユニフォームの形式は問いません。**

（ブルマの選手、スパッツの選手、セパレートの選手、ランニングシャツの選手が混在していても、**デザインや配色が同一であれば、ルール上は問題ありません**）※駅伝も同様

陸連
NEWS



3. 助力について（ロードレース）

【背景】

特に駅伝競走において、レース中の負傷（疲労骨折や捻挫など）や疾病（低体温・低血糖など）により、通常歩行が困難な状況の中で、競技を継続し危険な場面が生まれている。

【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

- ・転倒や意識混濁、疾病等により明らかに通常歩行や競技続行が困難となり、立ち止まりや横臥等の行動を行う競技者に対して、**審判員や公式の医療スタッフが声掛けを行うことは、助力とは見なさない。**
- ・本人がなお競技続行の意思を持っていても、競技者の生命・身体保護の観点から**審判長もしくは医師の判断で競技を中止させることができる。**
- ・審判員や公式の医療スタッフが**一時的に介護するために競技者の身体の一部に触れることは、助力とは見なさない。**
- ・審判長の権限を技術総務、競走審判員、監察員等に委任しておく必要がある。



- ▶ 競技規則を再確認のうえ、**競技注意事項や申し合わせ事項での周知**、および**監督会議等でのご説明**をお願いいたします。
- ▶ **医療体制・緊急時の連絡系統の確認**および**審判会議等での周知徹底**に、ご協力をお願いいたします。
- ▶ 医師を含む医務員を複数名任命し、**緊急医療体制（AED配置を含む）を整備**の上、競技会の開催をお願いいたします。

陸連
NEWS



4. 運営車両の安全対策（ロードレース）

【背景】

陸連主催大会「福岡国際マラソン2023」のレースにおいて、コース折り返し地点で選手が折り返した際、大会運営車両が選手と接触し、選手が転倒、右ひじの骨が折れる怪我をするという事故が発生。

その他の大会においても、中継バイクやカメラ車、運営車両が選手に近すぎるという声が、選手や関係者からあがっており、ロードレース大会での安全対策を改めて確認する必要がある。



- ▶ 安全運転を徹底するため、大会運営車両関係の会議などを実施する場合は、**「安全対策」に関する説明を行い大会運営車両のドライバーに対して安全な運転を行うよう研修を徹底**する。
- ▶ 大会運営車両を発進・運転・停止する際は、同乗している競技役員や運営スタッフと確認のうえ、前後左右の選手や沿道観客に注意を払う。**（ドライバー一人で判断をしないこと）**
また、大会運営車両が待機する場所では、**競技役員や運営スタッフを配置し、安全確認と誘導合図を行う**
- ▶ 随行車両が出場選手の妨げにならないよう、**審判長車などから車列への指示・連携がとれる通信手段を準備**するとともに、万が一の事故等が発生した場合、**速やかに対応できる体制を整備**し、競技役員や運営スタッフに内容を周知徹底する。